

(市長記者会見資料)

平成 19 年 1 月 4 日

京 都 市

総合企画局市長公室秘書課

電話 2 2 2 - 3 0 6 6

京都市名誉市民の内定について

このたび、小説家の瀬戸内寂聴氏と狂言師の茂山千作氏のお二方に、京都市名誉市民の称号をお贈りすることを内定いたしました。

1 内定者の略歴等について

(1) 瀬戸内^{せとうち} 寂^{じゃく}聴^{ちやう}氏

ア 主な略歴

- ・ 徳島市出身（大正 11 年 5 月 15 日生まれ，84 歳）
- ・ 京都市右京区在住
- ・ 小説家，尼僧，寂庵庵主
- ・ 天台寺住職（昭和 62 年～平成 17 年）
- ・ 敦賀女子短期大学学長（昭和 63 年～平成 4 年）
- ・ 国際コンペ「21 世紀・京都の未来」総合審査委員
（平成 9 年～平成 10 年）
- ・ 宇治市立源氏物語ミュージアム名誉館長（平成 10 年～現在）
- ・ 京都市文化ボランティアアドバイザー（平成 15 年～現在）

イ 受賞歴

- ・ 田村俊子賞（昭和 36 年）
- ・ 女流文学賞（昭和 38 年）
- ・ 京都市文化功労者（昭和 59 年）
- ・ 谷崎潤一郎賞（平成 4 年）
- ・ 芸術選奨文部大臣賞（平成 8 年）
- ・ 文化功労者（平成 9 年）
- ・ 文化勲章（平成 18 年）

ウ 功績等

「田村俊子」(田村俊子賞受賞)、「夏の終わり」(女流文学賞受賞)などを発表され、小説家としての地位を築かれた後、昭和49年に京都・嵯峨野の寂庵に居を構えられ、その後も活発な創作活動を続けてこられた。また小説家として活躍されるだけでなく、寂庵において説法を行われ、多くの人々に生きる希望を与えられている。

この間、「花に問え」(谷崎潤一郎賞受賞)、「白道」(芸術選奨文部大臣賞受賞)を発表される他、平成20年に一千年紀を迎える「源氏物語」の現代語訳を完成された。

(2) 茂山^{しげやま} 千作氏^{せんさく} (本名 茂山^{しげやま} 七五三^{しめ})

ア 主な略歴

- ・ 京都市出身
(大正8年12月28日に、三世千作氏【京都市名誉市民(昭和58年)】の長男として生まれる、87歳)
- ・ 京都市上京区在住
- ・ 大蔵流狂言師
- ・ 重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)に認定(平成元年)
- ・ 日本芸術院会員に認定(平成3年)
- ・ 四世千作襲名(平成6年)
- ・ 京都市文化ボランティアアドバイザー(平成15年～現在)
- ・ 京都創生百人委員会委員(平成15年～現在)

イ 受賞歴

- ・ 芸術選奨文部大臣賞(昭和58年)
- ・ 京都市文化功労者(昭和58年)
- ・ 紫綬褒章(昭和60年)
- ・ 勲四等旭日小綬章(平成3年)
- ・ 文化功労者(平成12年)

ウ 功績等

昭和32年の第1回開催以来、多くの市民に親しまれ、現在まで204回にわたり開催し、平成19年に50周年を迎える「市民狂言会」の創設に尽力され、現在も積極的に出演されるなど、その発展に大きく寄与された。

また、古典狂言はもとより、新作狂言、演劇など幅広く活躍され、全国の学校巡演を永年にわたり行われる他、海外公演にも多数参加されるなど、狂言の普及に尽力され、現在の狂言ブームの基礎を築かれた。

2 過去の京都市名誉市民表彰者について

(別紙)「京都市名誉市民一覧表」を参照

【参考】

○ 京都市名誉市民について(昭和28年度に創設)

(1) 表彰対象

本市市民又は本市に縁故が深く、公共の福祉を増進し、又は学術技芸の進展に寄与し、もって広く社会の進歩発展に貢献し、市民の尊敬の的と仰がれる方を表彰している。

(京都市名誉市民表彰条例第1条)

(2) 表彰時期

市長が議会の同意を得たうえで、原則として、京都市自治記念日(10月15日)に表彰し、その氏名、業績等を公示する。

(京都市名誉市民表彰条例第2条)